

~Love and laugh, in the whole world!~

株式会社SHO-SAKU事務所

スペシャル、サンクス、ミラクル、ステージ!

USA 芸術文化部主催 「知られざる偉人」 戯曲部門嘘優秀新人賞

七人の無刀流

2004

幕末会話劇



発行及び著作権者：SHOSAKU 事務所

キャスト

廣世康幸 田中絢子 片野真由子 増田信之 (ケトイシ)
塩路牧子 (遊牧管理人) 花房尚作

本パンフレットは参考資料として文章のみ組み合わせたものです。

実際のものとは異なります。

スタッフ

脚本・演出/ SHOSAKU
舞台美術/ 黒柳雅夫 (studio NERO)
照明/ 三枝歩
照明助手/ 白川緑
音源製作/ JustSpotMusic
音源提供/ 天心
音源提供/ バーニー動物病院
音源提供/ Electric Chair
音響オペ/ 津田犬太郎
映像製作/ お兄さん
デザイン/ gallery.M
マネージャー/ 司馬いぬ
ダンス/ きら (Electric Chair)

協力 (順不同)

Electric Chair チューリッヒ保険 劇団ケトイシ
北島大輔 中村まどか たこやきキラーズ 岡田洋治
宮城太一 (天心) 嶋田弦楽器製作所 Dアスリート
(福)藤野町社会福祉協議会 (株)安楽亭練馬小竹町店



公演にあたっての注意事項

本日はSHOSAKU事務所の公演にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。あと10分程で摩訶不思議な表現世界への旅が始まります。なお、旅の途中での退場は憲法9条で固く禁じられております。退場するとたぶん死刑になりますので、お手洗いなどは先にお済ませ下さい。また、携帯電話などの電子機器の使用はスパイ容疑がかけられ、これも死刑になると思われるのでご注意ください。それでは開演までもうしばらくお待ち下さい。

出演者紹介

廣世康幸

夢はよく見ますか？僕はあまり見ません。だから、夢を見たときはちょっと得した気になります。3年程前、ある夢をみました。着物を着た自分が、海岸沿いを歩いているんです。しばらくすると、犬が一匹ついてきました。あんまりずっとついてくるもんだから何かやろうと懐を探ると、袖から猿が出て来ました。びっくりしていると、犬が何も言わず落胆の表情を浮かべどこかへ行ってしまいました。今度は猿と一緒に道を歩いていると、山道に入りました。しばらくすると、なんだかわからないけど、鳥が10羽ほど何かを囲み騒いでいます。よく見ると、さっきの犬が血まみれになりながらキジと戦っていました。その時です。キジに取り押さえられ、仰向けにされた犬めがけて、これがトドメと言わんばかりに3羽のキジが急降下してきます。青くなり、もがき続ける犬、ケタケタと不気味な笑い声をあげるキジたち。僕はどうしていいかわからず、猿の方を振り返りました。猿は「行ってこい」と手で言うのです。そうだ、助けなきゃ！と思った瞬間、僕の足元には犬が、目の前にはキジ達の遺体がありました。あれ？これからなのにと、訳が解らないでいると、犬は礼を言い、スッと白い煙になりました。訳が解らないでいる僕に猿は追い撃ちをかけます。どこから出したのか、巻物を挿しだし、こう言いました。「免許皆伝じゃ」受け取った巻物を開くと、夢から覚め、そこは自分のベッドの上でした。いつもの絹のパジャマに、羽毛布団、寝汗がひどく、すぐにメイドさんに着替えをお願いしました。これ、特に今回の芝居とは関係ないですよ。

田中絢子

私の好きな食物は豚汁です。おいしいですよ、冬とか特に。夏、汗かきながら食べるのもおいしいですよ。具がいっぱい入ってて、ちょっとごま油と豚の脂がういてるやつ。食べたい～！でも、豚汁と似てるやつで、けんちん汁ってあるけど、私はけんちん汁も大好きだけど、豚汁とけんちん汁ってどう違うんだろう。私が思うに、豚汁には豚肉、けんちん汁には鳥肉が入ってる。って感じかな？たぶん。いや、けんちん汁はしょうゆ味だ！って人もいたかな？だいたいけんちん汁の『けんちん』ってなんだろう？どういう意味なんだろう？知ってる方がいたら教えて下さい。一緒においしいけんちん汁食べに行きましょう。ちなみに、嫌いな食物は、トマトジュースとうなぎです。本日は御来場いただきありがとうございます。

片野真由子

お疲れ様でした。お気付きかと思いますが、この小冊子の内容は、あまり芝居とは関係ありません。おまけに本当なのか嘘なのかもよく知りません。得に面白くもありません。そういうものです。学生の頃は映画が好きで、映画のパンフレットを集めていました。パンフレットというのは、それを見る事で、映画の内容がより理解できたり、出演している役者さんや作った人の事を知れたり、「こんな映画を観たなー」と思い出したりするためにあると思うんですが、このパンフレットは何一つ役目を果たしてません。心苦しい限りです。話は変わりますが、今青山劇場で少年

隊がミュージカルをやっています。観に行きたいけど多分行きません。私はカラオケに行くといけない『仮面舞踏会』を歌います。がしかし、困っている事があります。実は私はこう見えて、少年隊世代ではないのです。少年隊世代ではない、とういうことはつまり、同年代である友達も当然少年隊世代ではないのです。これは深刻な問題です。何故かという、御存じの方もいらっしゃると思いますが、『仮面舞踏会』には、掛け合いの部分があるからです。掛け合いを一人で歌いきるのは辛い、そして何より、寂しい。でも歌いたい、『仮面舞踏会』を私は。それが私の唯一の悩みです。一日も早く、『仮面舞踏会』を歌える友達がでる事を願っています。贅沢をいうなら、「好きさおまえが〜」の方を担当したいと思っています。この場を借りて募集したいと思います。あと、ウィンクを振り付きで歌える方、教えてください。では、また『運び屋』で。

増田信之（ケトイシ）

『これから…』

世の中がおかしくなってきた。この場合の「おかしい」とは、別に『うえっへっへっえ！愉快じゃ愉快じゃ！こりゃたまら〜ん！』って意味ではないです。子供が人殺しだとか、大人が人殺しとかねえ。他に解決の方法なんていくらでもあるでしょ！と言いたい。多分出来なくなっているのでしょう。一番簡単な事が、そして一番大切なことを。人を愛するという事を…。ま、僕の場合は人を愛するよりも、まず自分を愛してますけど。ラブ自分？て感じですよ。今日（今現在）相田みつを美術館に行ってきた

ました。本名は光男だと知りました。僕のお父さんの名前と同じです。そして故郷も一緒でした。つまりは、いいモノはいい。いいモノは時代を越えて、いい。と、言いたいのです。僕もそんな立派な人間になりたいです。いや、立派でなくてもいい。ただ、ヒトでいられたら。大好きな人がそばにいてくれたら…。なんだこりゃっ！ちょっと詩人ぶってしまいましたね。いや、でも実際口マンチストですよ。僕は。この『幕末口マン』にますだごどう挑戦するか！？ご期待くださいませ！

花房尚作

キラ君との出会い。

今回の芝居には出演していないが、いつも出演してくれているキラ君との出会いについて書こうと思う。まず彼を語る上で欠かせないのが「白人至上主義」である。彼は黒人をニガーと呼ぶ。方々の影響を考えて明記出来ないが、ある「白人至上主義」団体に所属していた。僕と彼が出会ったのは、その団体のパーティーの席だった。そうそう、方々の影響を考えて明記出来ないが、そのパーティーには多くの著名人も参加していた。大統領関係者や政府関係者、ハリウッド関係等々である。僕がハーバード大卒だと言うのは、もう覆しようの無い事実だが、当時の彼もバークレー音楽学院に在籍していた。そうそう、言い忘れていたが、僕と彼が出会ったのはボストンである。その当時付き合っていた恋人のニコール（オランダ系アメリカ人）の父親がボストンの実力者で、方々の影響を考えて明記出来ない団体の会長を務めていた。「その団体に一度顔を出してくれ」と、ニコールの父親から度々言われていた。僕は人種差別的な事には

興味が無く、価値観を押し付けられるのがたまらなく嫌なので断っていたが、ニコールのふて腐れた表情がたまらなく可愛くOKしてしまった。まったくもって恥ずかしい限りだ。そこで、いたしかたなく行ってみると、パーティーは和やかな雰囲気にもまれていた。殺気めいた空気を想像していた僕は面食らってしまった。ボストン・シンフォニー楽団が演奏するシューベルトの楽曲が流れるなかで、皆楽しそうに談笑していた。僕とニコールはカフェテラスのカウンターに座って、ワイルドターキーを飲みながら昨夜一緒に観た映画の話をしていました。そうそう、ワイルドターキーをワールドターキーと間違えて呼ぶ人が居る。それならまだ良いがジャック・ダニエルをジャック・ニコラスと間違えて呼ぶ人が居る。これは全然違う。おっと、どうでも良い話をしてしまった。で、しばらく話していると、ニコールの父親がやってきた。僕に紹介したい人物が居ると言う。それがキラ君だった。当時の彼は完全にイカれていて、クレイジーそのものだった。あちこちピアスをし、髪は紫で目つきは明らかにコカインをやっている目だった。必ず語尾にファックが付く。むしろファックしか言ってなかった。ニコールの父は「彼は優秀な音楽家で小澤征二も一目置いている」と言う。日本語でちょっと話してみたが、日本語でもキラ君は必ず語尾にファックを付けていた。むしろファックしか言ってなかった。会話にならないのでその場はそれで終わった。数日後、ニコールがLIVEチケットを持ってやってきた。タイガー・オコシと言う日本人トランペッターのLIVEチケットだった。音楽の世界は日本人の進出がとても激しく、ピアノの世界的なアーティストはほとんどが日本人である。世界的に有名であっても日本ではほとんどが知られてい

ない。それが現実というものだった。その結果として、多くの優秀な音楽家は海外で活動している。で、そのタイガー・オコシだが、音楽家なら誰もが知っている日本人Jazzトランペッターである。僕はその日、遺伝子工学のレポートを書かねばならず、そのLIVEに行くのを一旦断ったのだが、ニコールのふて腐れた表情がたまらなく可愛くOKしてしまった。まったくもって恥ずかしい限りだ。という訳で、仕方なくLIVEに向かったのだが、ニコールのドレス姿がとても綺麗だったのを覚えている。まるで古いアメリカンムービーのヒロインを思わせる洋装だった。思わず、その美しい洋装をはぎ取って、その場で性交したのは言うまでも無い。まったくもって恥ずかしい限りだ。で、LIVEだ。会場の座席に腰掛ける。そして割れんばかりの拍手の中、そのLIVEは始まった。ふとステージの奥を見ると、見た事のある人物が居る。良く目を凝らすとそれはキラ君だった。なんだか木で出来た楽器を弾いている。後で知ったのだがマンドリンと言う楽器だそう。二時間ほどのLIVEが終わって、さっそく楽屋へ挨拶に行ってみた。キラ君の言葉尻には相変わらずファックが付いていた。むしろファックしか言ってなかった。そしてコカインをやっている目だった。その後、あれやこれやと色々あって僕は日本に帰ることになる。日本で株式会社SHO-SAKU事務所をつくって、芝居づくりにのめり込んでいった。そんなある日、どこで噂を聞いたのか知らないが(これはキラ君も語ろうとはしない)、SHO-SAKU事務所の芝居を観にキラ君がやって来た。そして公演終了後、キラ君は僕に普通の日本語で語りかけてきた。いや、普通と言うより感動に打ちひしがれた語りだったと思う。「こんな芝居観たことが無いです。凄

かったです」それがキラ君の第一声だった。それはコカインをやっている目では無かった。そしてキラ君はSHO-SAKU事務所の芝居作りに加わった。とはいえ、思想と言うのはそう簡単に変わるものではなく、キラ君は現在も白人至上主義であり、白人至上主義団体に所属している。黒人をニガーと呼ぶ。しかしそれはそれで良いと思う。思想に正しい、正しくないは無い。大切なのは人を傷付けるか傷付けないかだ。これが僕とキラ君との出会いだった。なお、本文の大部分は僕の妄想であることを付け加えておく。

Mについて対談（塩路牧子&きら）

『月刊S&Mより抜粋』

塩路氏『始めまして、きら君。我々はMだと自分自身、心から思っている！ そうだね、兄弟？』

キラ君『はい。私は自薦他薦を問わないMであります！ 閣下！』

塩路氏『私、塩路牧子はもともとM科の人間をも究極のSに変えてしまうほどのM度の高い女であります。』

キラ君『さすが閣下！ 上司にはペコペコし、下には威張り散らす社会情勢を鋭く突いています！』

塩路氏『朝、目覚めにシャワーを浴びる人がいるように、私は蠟燭を浴びます。』

キラ君『さすが閣下！ 浴びる繋がりの無駄の無い文章！ そして斬新なカミングアウト！』

塩路氏『そして、株式会社SHO-SAKU事務所内にてきら君という私のM加減を脅かす存在と出会った。』

キラ君『そんな減相もありません閣下！ 閣下の足元にも及びませぬ。』

塩路氏『さらくんって言葉攻め好きだよね～？』

キラ君『さすが閣下！ 言葉は人を傷つける武器にもなるし、逆に人を喜ばせる事もできるという事を、かなり深読みしないと判らないように、僕に訴えかけている！』

塩路氏『私は言葉よりも、やっぱり物での攻撃が最高ね。』

キラ君『さすが閣下！ 世の中、言葉よりも金！ それを相当深読みしないと判らないが、皮肉ってらっしゃる。』

塩路氏『ま、私が最終的に言いたいことは、Mは世界を救うって事ね。』

キラ君『さすが閣下！ Mとは芝居の事。芝居とは自分を虐める事。世界は人の心。芝居は人の心を癒してくれる。今回御来場頂いた皆様に、そんな癒しの芝居をしたい！ そんな強引な深読みしなければならないが、意思表示をしてらっしゃる。そして御来場していただいた皆様に感謝しているという事を、もうこれは強引と言うか無理がある深読をしないとわからないが、感謝の意を述べてる。もう火の打ち所が無い。今回は対談ありがとうございました。』

塩路氏『私にお礼の言葉は要らないわ。』

キラ君『さすが閣下！（以下略）』